

スカイプを使った画像中継の教育利用の試行

乙部町立明和小学校

教頭 佐々木 朗

1. はじめに

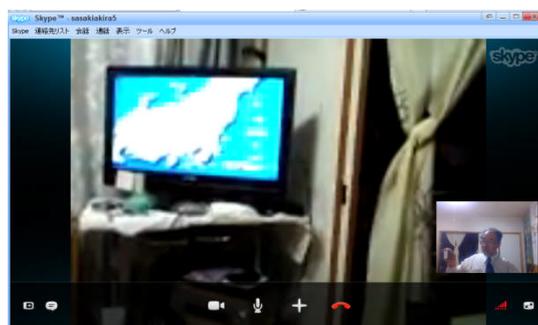
本校は乙部中心街から約 10 キロ北部の高台に位置する小規模へき地校である。児童数は 17 名の完全複式校である。子どもたちは明るく純朴であるが、限られた人間集団の中で生活しているということもあり、ともすれば、人とのコミュニケーションを苦手としがちである。

本レポートは ICT を使ったコミュニケーションツールの一つとしてスカイプを使って実践を試みた。ICT 機器を有効に使うことにより、市街地、へき地の差別なく、コミュニケーション活動が充実すると考えたからである。

2. スカイプとは

スカイプとは、インターネットを使った音声（音声+動画）通信であり、コンピュータ同士は無料である。また、スカイプは比較的低速のインターネット回線でも、比較的ロースペックのパソコンでも、ストレスなく使えることも特徴である。

スカイプを利用するためには、①パソコン（スマートフォン）、②インターネット回



線、③カメラ（動画を利用する場合）、④専用ソフトである。

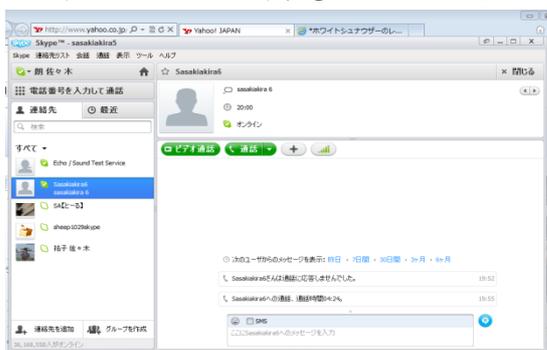
③のカメラは、最近のノートパソコンには、標準装備されている場合が多い。また、外付けの USB カメラも、ヘッドセットがついて、1000 台の比較的安価で入手することができる。

スカイプを利用する手続きとしては、①スカイプのダウンロード、②スカイプ名、パスワードの登録、③通話相手の登録が必要である。

3. 今回のスカイプの試行

今回試行したスカイプは、学校、スマートフォン間の動画通信である。本校の校区は漁村地帯にあり、現在スケソの漁業が盛んである。子どもたちに地元産業の理解を深めさせるために、総合的な学習の時間にスケソの学習に取り組んでいる。今回は、スケソ漁の取材のため、漁船に同乗した本校職員が学校にいる子どもたちとスカイプを使って情報交流を行った。

船上の教員には、私のスマートフォンを持参してもらった。移動側のシステムはそ



れだけである。一方学校側は、多くの子どもたちに船上の様子を伝えるために、①画面を外付けの大型テレビに映し出した。②船から届く音声をアンプをつなぎ、みんなに聞こえるようにした。③質問が船上の先生にはっきりと聞こえるように、マイクを設置した。

当日午前4時に漁港で見送り。朝7時に中継のリハーサルをした。ちょうど船からの日の出を見ることができた。

8時半、全校の児童を音楽室に集め、朝会を行った。子どもたちには、中継のことはまだ秘密である。校長先生より戦場カメラマン＝船上カメラマンについてお話があり、中継を開始した。



「ツーツーツー」と相手呼び出す音。「はい、滝澤です。」声が聞こえると子どもたちは大歓声。その数秒後、ディスプレイいっぱい先生の顔が映し出されると、またもや大歓声である。

船上の先生より、周りの船の様子や釣れた魚の様子、乗組員の仕事の様子などが次々と中継で伝わってくる。次に子どもたちの質問を受けた。「波の高さは?」、「魚のとれ具合は?」、「船のゆれは?」など一つ一つ、先生が答えてくれた。

10分弱の中継ではあったが、子どもたちは、船にいる先生と顔を見ながらお話ができたことに興奮しながらもとても喜んで



いた。

そして、子どもたちにもまして、喜んでいたのは、学校現場にスカイプという新しい手段を持ち込み、それがうまくいった私自身だったのかもしれない。

4. 今後に向けて

スカイプ自体は、パソコンを身近にしている人たちにとっては、既に利用している手軽な通信手段であろう。しかし、学校現場においては、スカイプという言葉さえ、耳にしたことのない方も結構多い。教員の多くは、コンピュータを使うと言っても、インターネットで調べる、ワープロで文書を打つなどの程度であることも予想がつくので、もっともといえどもである。



今回のスカイプの試行で、本校の先生方にとっても、スマートフォンとパソコンがあるだけで、テレビ中継ができるという感動を得ることができた。

私は、通信手段としてのスカイプは、学校教育においても、かなり有効なツールとして使えると考えている。

今回のように現場から中継することを始

め、調べ学習での専門家へのインタビュー、近隣校との子ども同士の交流、職員のテレビ会議などが考えられる。

特に、近隣校との交流については、特に小規模校においては、輸送手段や輸送コスト、輸送時間などに限りがあることから、年に何回という限られた回数での交流にならざるを得ないという現状があるが、このスカイプを有効に使うことにより、普段からのコミュニケーションをとること、発

表場面で一方が発表校、もう一方が聞き手校などというような交流も可能となってくる。

地域格差がないのがインターネットのよいところでもある。私はこの有効なスカイプというツールを使いながら、特にへき地校におけるコミュニケーション能力の育成について、今後、実践的に研究を進めてみたい。